

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート (2026年3月)

■ 3月のパフォーマンス

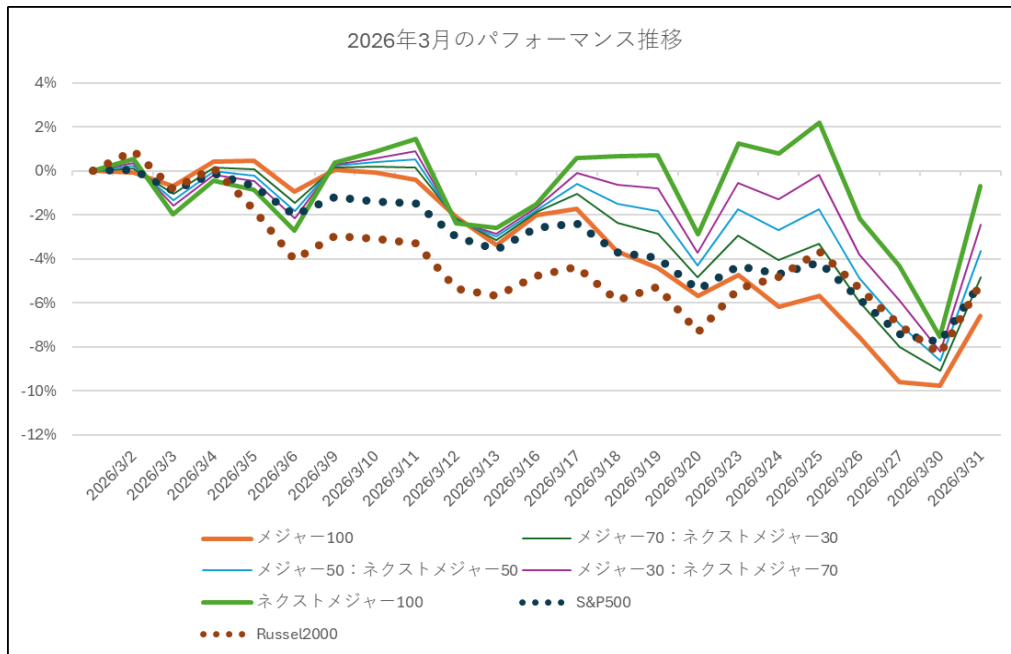
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	△6.60%
ネクストメジャー100	△0.69%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	△5.09%
Russel2000	△5.17%
NY ダウ	△5.38%
NASDAQ	△4.75%

➤ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	ネクストメジャー100	-0.69%	Russel2000	-5.17%	4.47%
2位	メジャー30:ネクストメジャー70	-2.46%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	-5.14%	2.68%
3位	メジャー50:ネクストメジャー50	-3.64%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	-5.13%	1.48%
4位	メジャー70:ネクストメジャー30	-4.83%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	-5.12%	0.29%
5位	メジャー100	-6.60%	S&P500	-5.09%	-1.50%
	全戦略平均	-3.64%			1.48%

※各指標のベンチマークについて

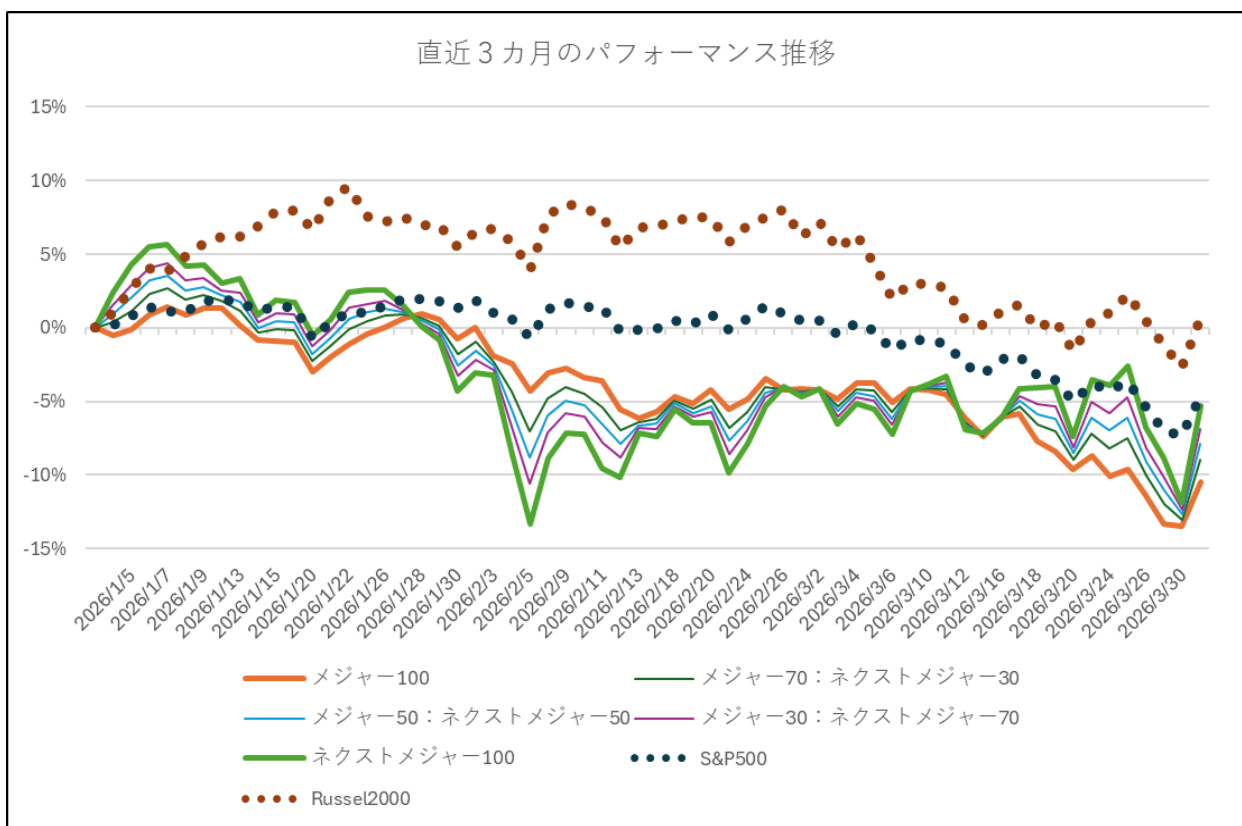
メジャー100のベンチマークはS&P500、ネクストメジャー100のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

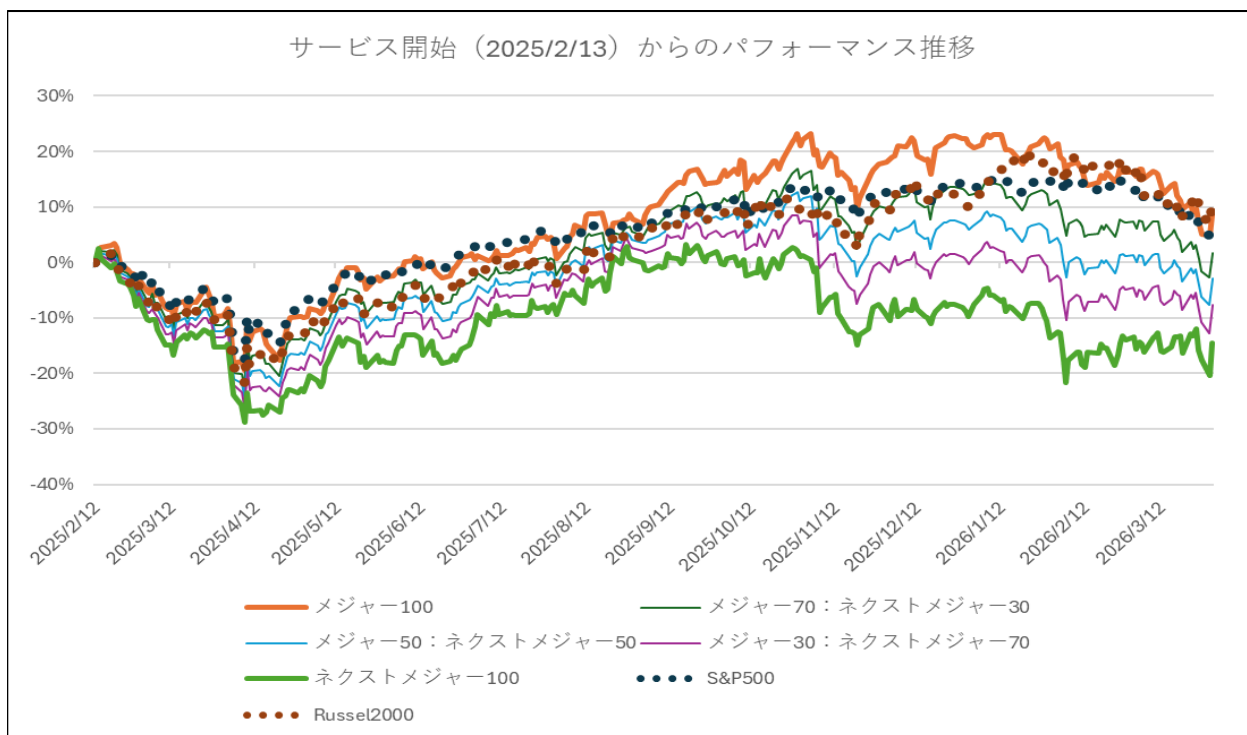
WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）で最も月間成績が良かった戦略は、「ネクストメジャー100」でした。月間で▲0.69%、対ベンチマーク超過収益では+4.47%となり、ベンチマークをアウトパフォームする結果となりました。

➤ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロス）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年3月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年3月末までの運用実績です。

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー100	-6.60%	-10.49%	4.73%	20.07%	8.62%	1.02	1.78
ネクストメジャー100	-0.69%	-5.33%	-7.55%	0.90%	-14.51%	0.28	0.42
S&P500	-5.09%	-4.63%	2.98%	16.33%	7.87%	1.20	2.01
Russel2000	-5.17%	0.75%	12.84%	24.10%	10.71%	0.72	1.21

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています。

※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。

■ 3月の市況概況

➤ 米国市場

3月の米国市場は、イラン情勢の緊迫化に伴う原油高とインフレ再燃懸念、さらにはスタグフレーションリスクの台頭から、FRB（連邦準備制度理事会）の利下げ観測が急速に後退し、ボラティリティの極めて高い調整局面となりました。

・第1週（3月2日～3月6日）／ダウ平均：△3.01% S&P 500：△2.02%、NASDAQ：△1.24%

イラン情勢緊迫化による原油高と雇用統計の悪化で大幅下落

イラン情勢の悪化でWTI原油先物が急伸し、インフレ再燃懸念から米10年債利回りが4%台へ上昇しました。2月のISM非製造業指数は56.1と底堅さを示したものの、2月の雇用統計は非農業部門雇用者数が9.2万人減と想定外の悪化となり、失業率も4.4%へ上昇しました。スタグフレーションへの警戒感が強まる中、景気敏感株を中心に売りが膨らみ、ダウ平均は一時1200ドル超下落するなど主要3指数は下落基調となりました。

・第2週（3月9日～3月13日）／ダウ平均：△1.99%、S&P500：△1.60%、NASDAQ：△1.26%

原油高を受けたインフレ警戒とFRB政策への不透明感から上値の重い展開

イラン情勢への警戒感や原油価格の乱高下に市場が敏感に反応し、上値の重い展開が続きました。2月のCPI（消費者物価指数）は前年同月比2.4%上昇、1月のPCE（個人消費支出）コア指数は3.1%上昇と予想と一致しましたが、原油高による今後のインフレ再燃への警戒は拭えず、FRBが利下げに慎重になるとの観測が強まり、ハイテク株を中心に売りが先行しました。G7の石油備蓄協調放出で原油が一時下落してダウが反発する局面もありましたが、週後半にかけて指数は続落しました。

・第3週（3月16日～3月20日）／ダウ平均：△2.11%、S&P 500：△1.90%、NASDAQ：△2.07%
FOMCの政策金利据え置きとタカ派発言で利下げ観測が後退

週初はNVIDIAの開発者会議を受けたAI関連株への買いなどで反発したものの、週後半にかけて下落しました。FRBはFOMC（連邦公開市場委員会）で政策金利の据え置きを決定しましたが、2月のPPI（生産者物価指数）の上振れや、パウエル議長がインフレ進展がなければ利下げを行わないとタカ派的な発言をしたことで、年内の利下げ観測が急激に後退しました。中東情勢の緊迫化を背景としたエネルギー供給懸念も重荷となり、主要3指数は揃って3日続落しました。

・第4週（3月23日～3月27日）／ダウ平均：△0.90%、S&P500：△2.21%、NASDAQ：△3.23%
中東の地政学リスクとプライベートクレジット市場への懸念から全面安

イランとの停戦交渉に関する大統領の言動に市場が振り回され、ボラティリティの高い展開となりました。年内の利下げ期待が1割程度まで低下する中、プライベートクレジット市場における大手ファンドの解約制限の動きが投資家心理を冷やし、サイバーセキュリティ関連株などが大きく下落しました。週末にはダウ平均が793ドル安と全面安となり、高値から10%を超える下落で調整局面入りが強意識されました。

・第5週（3月30日～3月31日）／ダウ平均：+2.60%、S&P500：+2.51%、NASDAQ：+3.07%
中東の緊張緩和期待で原油下落、週後半にダウ平均が急反発

週前半は米フィラデルフィア半導体株指数の下落や、Googleの新技术発表によるAIメモリ需要縮小懸念から、NVIDIA

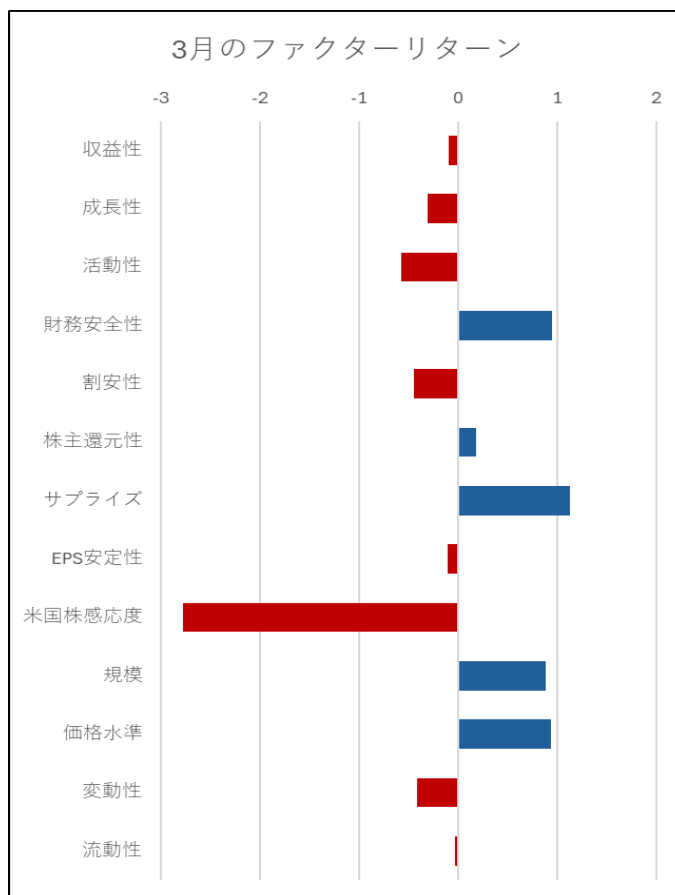
などの半導体関連株が売られ、ナスダックは続落しました。しかし、月末にかけてトランプ大統領がイランへの軍事作戦の早期終了を示唆し、イラン側も前向きな姿勢を見せたことで（後に否定）、中東の緊張緩和期待が急速に高まりました。原油先物が下落し過度なインフレ懸念が後退したことで、ダウ平均は一時1,100ドル超の急反発を見せました。

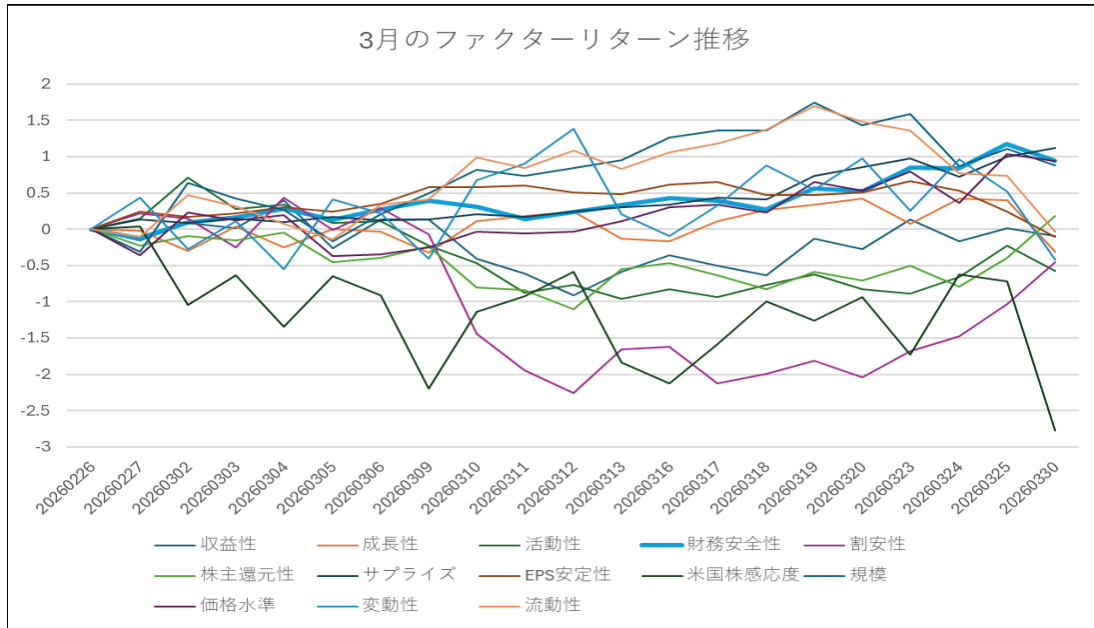
■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

3月は、低ベータの大型・値嵩のクオリティ株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、財務健全性ファクター・業績サプライズファクター・規模ファクター・株価水準ファクターがプラスとなり、イラン情勢の緊迫化・原油高によるインフレ再燃懸念・スタグフレーションリスクの台頭・FRBの利下げ観測の後退等、急激なリスクオフの展開となるなか、市場の下落に連動し難い大型・値嵩のクオリティ株が相対的に堅調であったことが見て取れます。



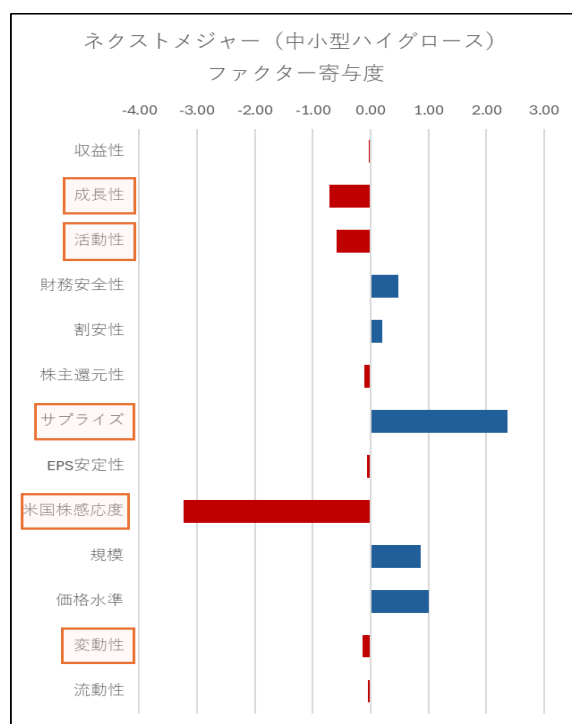
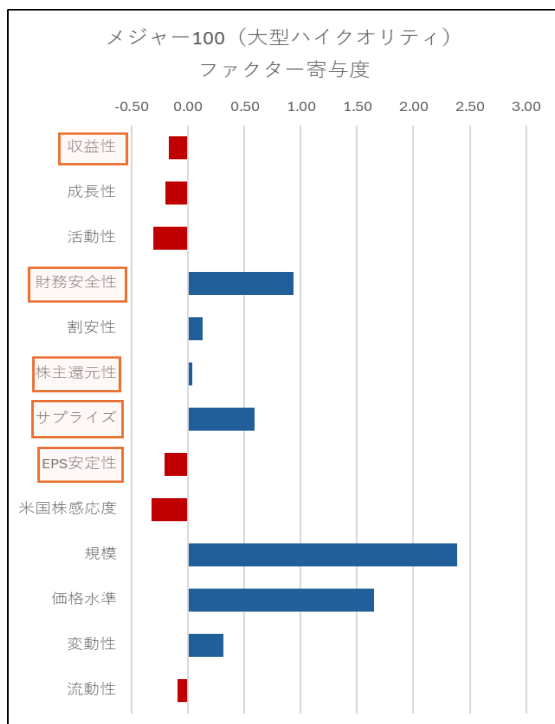


➤ **ファクター寄与度**

その様な市況環境のなか、

メジャー100 (大型ハイクオリティ) がS&P500をアンダーパフォームした要因は、メジャー100の特徴である「好業績 (=ポジティブ・サプライズ)、財務安定」といったポートフォリオ特性はプラスに寄与するも、高い流動性と高米国株感応度 (=ハイベータ) 特性がマイナスに大きく寄与したためです。

ネクストメジャー100 (中小型ハイグロース) がRussel2000をアウトパフォームした要因は、ネクストメジャー100の特徴である「好業績 (=ポジティブ・サプライズ)」特性が大きくプラスに寄与したことで、「高米国株感応度 (=ハイ



ベータ)、高変動性 (=ハイリスク)、高成長」といったポートフォリオ特性のマイナスをカバーできたためです。

米国市場は、イラン情勢の緊迫化・原油高によるインフレ再燃懸念・スタグフレーションリスクの台頭・FRBの利下げ観測の後退、さらに、目まぐるしく変化するAI関連銘柄への評価等、不確実要因が山積しており、リスクオフの投資姿勢が継続しています。

➤ 個別銘柄寄与度

メジャー (大型ハイクオリティ) 寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	PLTR	パランティア・テクノロジーズ	0.6%	+0.04%
	ビッグデータ解析プラットフォーム事業。政府向け「Gotham」と民間向け「Foundry/AIP」を展開。AIプラットフォーム (AIP) の商用利用が爆発的に拡大しています。また、2025年にS&P500に採用されて以降、機関投資家の保有比率が上昇し、民間部門の収益が政府部門を逆転しました。成長性は圧倒的と評価されています。			
2	NFLX	ネットフリックス	4.3%	0.00%
	世界最大の動画配信サービス事業。広告付きプランが収益の柱となり、パスワード共有対策による会員純増も定着。2026年はライブ配信 (スポーツやイベント) への投資を強化しており、メディア企業から「テック企業」への純化が進んでいます。安定したキャッシュフローと営業利益率の向上が評価されています。			
3	APP	アップロビン	0.5%	▲0.04%
	モバイルアプリの広告・マーケティング支援事業。独自のAIエンジン「Axon 2.0」による広告最適化が異次元の利益率を実現。ソフトウェア部門の成長率が市場予想を大幅に上回り続け、AIによる「実益」を最も享受している一社として注目されています。AIによる収益化モデルの完成度が極めて高いとされ、多くの証券会社が高く評価しています。			
4	MRK	メルク	2.1%	▲0.04%
	大手製薬会社。がん免疫薬「キイトルーダ」が主力事業。2028年のキイトルーダ特許切れを見据えたパイプラインの拡充が焦点。2025年後半から相次いでバイオテック企業を買収し、心血管疾患や免疫疾患領域でのポートフォリオ強化が実を結び始めています。安定した配当と堅実な収益性が「守り」の銘柄として評価されています。			
5	UBER	ウーバー・テクノロジーズ	1.3%	▲0.06%
	ライドシェア、フードデリバリー、貨物輸送事業。サブスクリプション「Uber One」の会員数が1億人を突破。広告事業が高利益率の収益源として確立され、自律走行車 (ロボタクシー) 企業との戦略的提携により、将来のコスト削減期待が高まっています。フリーキャッシュフローの創出能力が飛躍的に向上し、自社株買いへの期待も評価されています。			

ネクストメジャー（中小型ハイグロース） 寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	FSLY	ファストリー	10.9%	+4.47%
	エッジコンピューティングおよびコンテンツ配信（CDN）事業。2025年の経営陣刷新後、製品の統合とコスト構造の最適化に成功、セキュリティ分野（WAF等）とのクロスセルが好調で、2026年Q1に待望の持続的な純利益の黒字化を達成しました。			
2	SEI	ソリス・エナジー・インフラストラクチャー	3.0%	+0.40%
	石油・ガス開発向けの砂・水管理の自動化、および電力インフラの提供事業。事業拡大により、データセンター向け電力インフラやモバイル電源ソリューションに注力。2025年の買収効果で収益がほぼ倍増しており、エネルギー効率化のリーダーとして注目、従来の石油・ガス向けサービスに加え、電力インフラ電力需要を取り込んだ多角化が非常に高く評価されています。			
3	BTSB	ブライトスプリング・ヘルス・サービス	6.8%	+0.19%
	高齢者や障害者向けの在宅・コミュニティベースのヘルスケアサービス。米国の高齢化を背景に需要が堅調。2024年のIPO後のデレバレッジ（債務削減）が計画通り進み、2026年に入り利益率の改善が顕著になっています。特殊薬局部門の成長が寄与、在宅ケアへのシフトという長期的トレンドの恩恵を受ける銘柄として評価されています。			
4	LITE	ルメンタム・ホールディングス	1.5%	0.00%
	光学コンポーネント、レーザー技術事業。AIデータセンター内の通信高速化に伴い、800Gおよび1.6T光トランシーバー用の部品需要が急増。長引いた在庫調整が2025年中に完了し、現在は AIインフラ投資の直接的な受益者として業績が急回復しています。AIハードウェアの「第2の波（ネットワークインフラ）」の本命として評価されています			
5	TVTX	トラベール・セラピューティクス	2.0%	▲0.01%
	希少疾患（特に腎疾患）向け治療薬の開発・販売事業。腎疾患治療薬「FILSPARI」の採用が大幅に拡大。2025年に完全承認を取得したことで処方数が急伸しており、2026年中に黒字化が見込める段階まで収益が改善しています。希少疾患領域での独占的地位と、成長の転換点を迎えた財務状況をポジティブに評価されています。			

■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

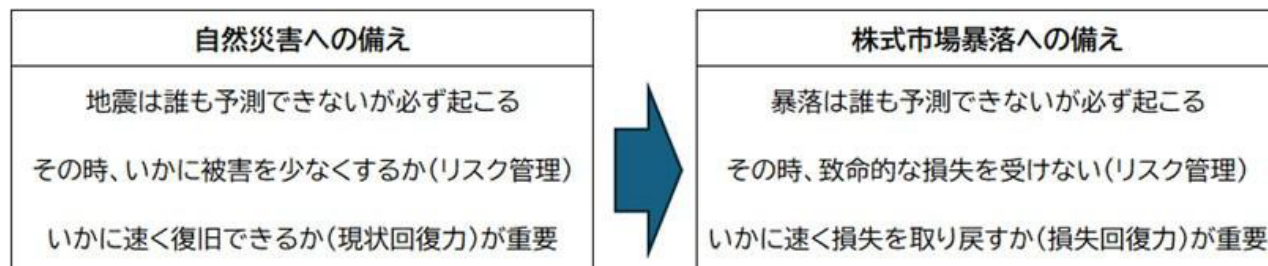
特色 3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は 20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S & P500 ±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

① 大型株 (Major)

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年4月6日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要コストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

[投資一任契約の媒介業者]



Jトラストグローバル証券株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号
 加入協会／ 日本証券業協会
 一般社団法人資産運用業協会

[口座管理機関]



株式会社スマートプラス
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号
 加入協会／ 日本証券業協会
 一般社団法人資産運用業協会
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会